

情報コーナー



■市史だより Fukuoka 14

特集「歴史の郷 柏原に行く。」

現在編纂・刊行中の「新修 福岡市史」にあわせ「市史だより」が年2回発行されています。14号では柏原をとりあげています。

6～10世紀には柏原小学校近くの丘陵にたたら製鉄があり、近くで木炭を調達していたと想像される、と述べられています。また柏原に多い庚申塔は旧柏原村の民家が建っていた地域と重なることも触れられています。

「市史だより」はweb上で閲覧できます。

<http://www.city.fukuoka.lg.jp/shishi/publish01.html>

■初春の森自然かんさつハイキング

小さな草花や木々の芽吹きなど春の訪れを感じながら歩いてみよう！！

日時：3月20日（火・祭日）

10：00～13：00

申し込み：不要

集合：9：30自然観察センター

参加費：100円

問い合わせ先：福岡市油山自然観察センター

092-871-2112

油山の樹木ア・ラ・カト(28)

早春の森の中、木漏れ日に輝くアオキの実が美しい。艶やかな青い葉陰から覗く赤い実が春の息吹を感じます。秋には緑色だった実が、冬の寒さによって真っ赤な珊瑚玉になっています。「名は体を表す」と申しますが、アオキは1年中、葉も枝も青々していることから「アオキバ」転じて、アオキ（青木）となりました。学名は、*Aucuba*（アウクバ）*Japonica*（ジャポニカ）で、英名も *Japanese Aucuba* だから、まさに日本特産の植物と言えます。ミズキ科アオキ属、雌雄異株の常緑低木で、花期は3月から5月と長く、円錐花序に紫褐色の小さな花を多数つけます。花の形は小さいながらも、花卉の様な総苞片が4枚あって、ヤマボウシやハナミズキによく似ています。アオキは日陰を好む傾向があり、スギ林や山の斜面、谷沿いの肥沃な土地に多く自生しているため、スギの生育を示す指標植物となっています。

方言名として、ミソブタ、アオンド、オショギ、ケツネノシリフキなどがあります。そこで、アオキの世代交代の作戦ですが、野鳥達に珊瑚玉を提供しなければなりません。いかにも美味しそうな色形をしているにも係わらず、食べて呉れるのは、ヒヨドリやツグミ類など僅かです。ある日、森の中でヒヨドリが真っ赤に熟れた楕円状の実を嘴でちぎり取り、ポイと跳ね上げる様にして器用に食べていました。果実など未熟なものを「青い」と表現しますが、人間の世界でも、その人柄や考えが未熟な場合に「青二才」とか「青臭い」「考えが青い」と言います。たとえ「あいつは青い」と言われようとも、いつまでも青々と青春していきたいものですね。

（安部 泰男）

